

スタッフに透析知識調査を試みて

太田ネフロクリニック 看護部

○高橋智仁 山中祐治 二階堂剛史 酒井伸一郎

【目的】

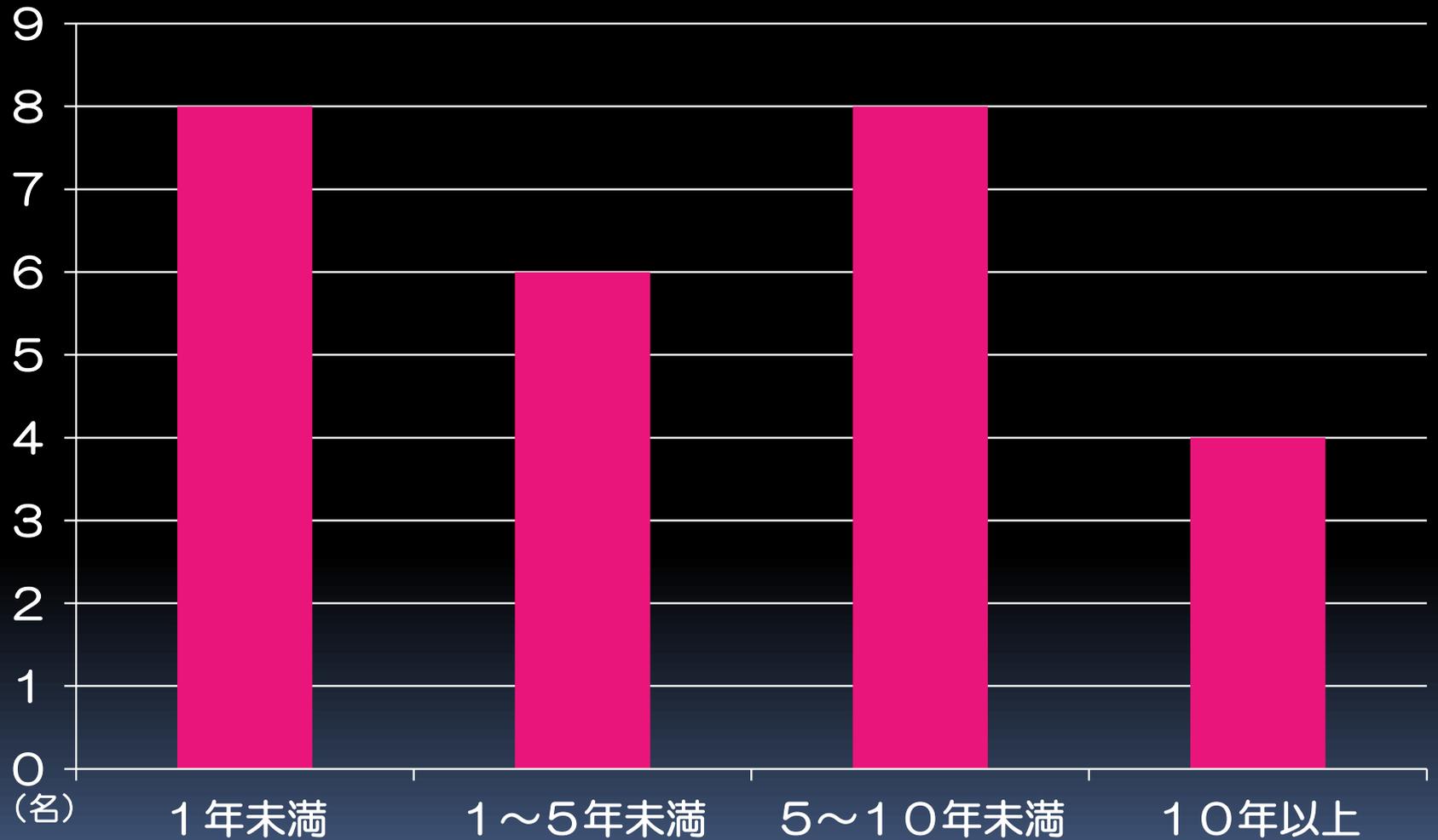
個々の透析知識を把握し苦手分野を克服できれば、より安全に透析治療が行えるのではないかと考え知識調査を実施した

【対象及び方法】

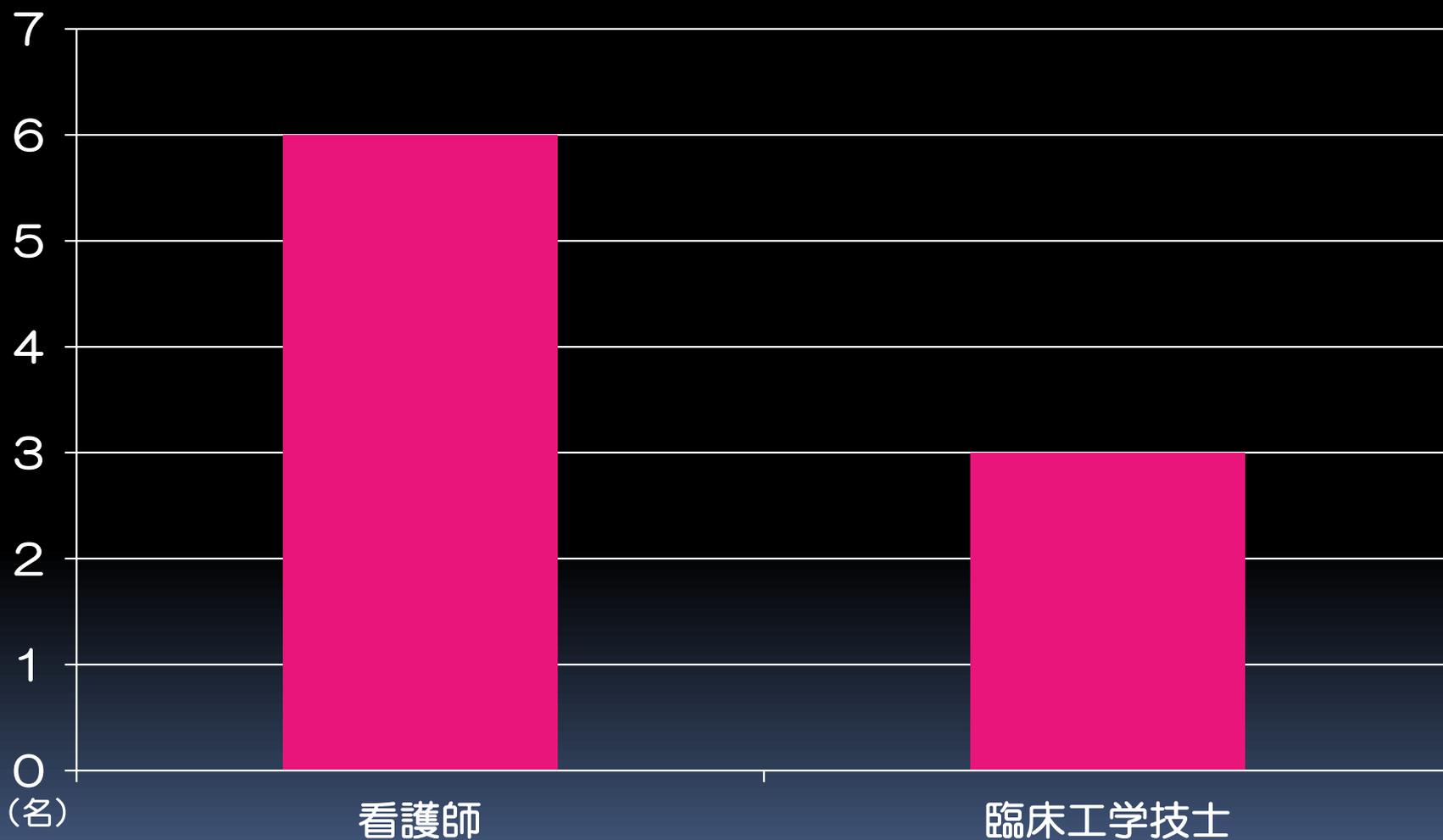
対象： 当院透析室従事者 26 名
（看護師 21 名 臨床工学技士 5 名）

方法： 日常業務に必要なことや基礎知識を中心
に問題を作成し、勤務年数に関係なく
実施（新人には入社 3 カ月後に実施）

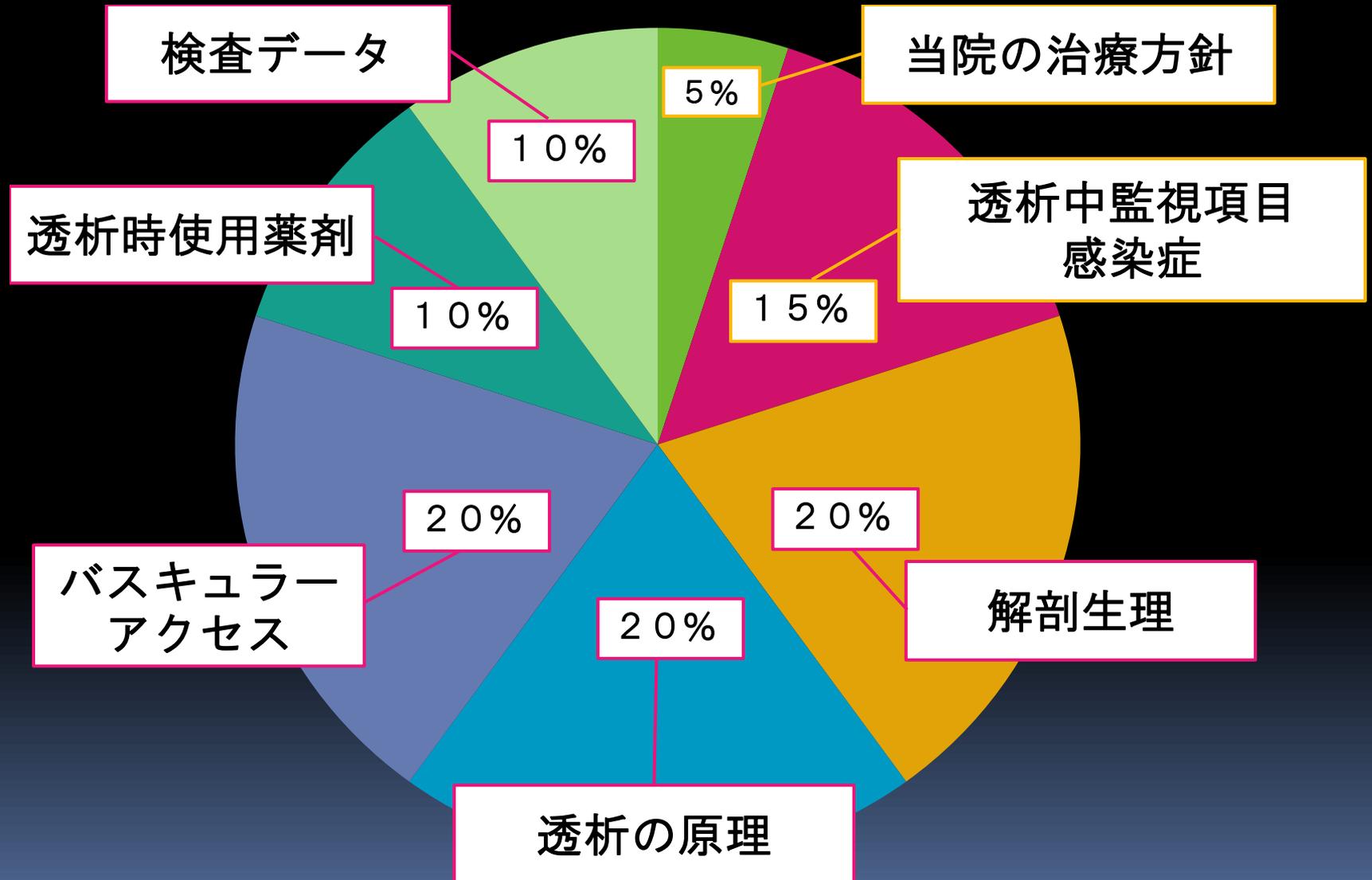
透析室従事者の勤務年数比較



当院の透析技術認定士保持者数



テスト問題の概要

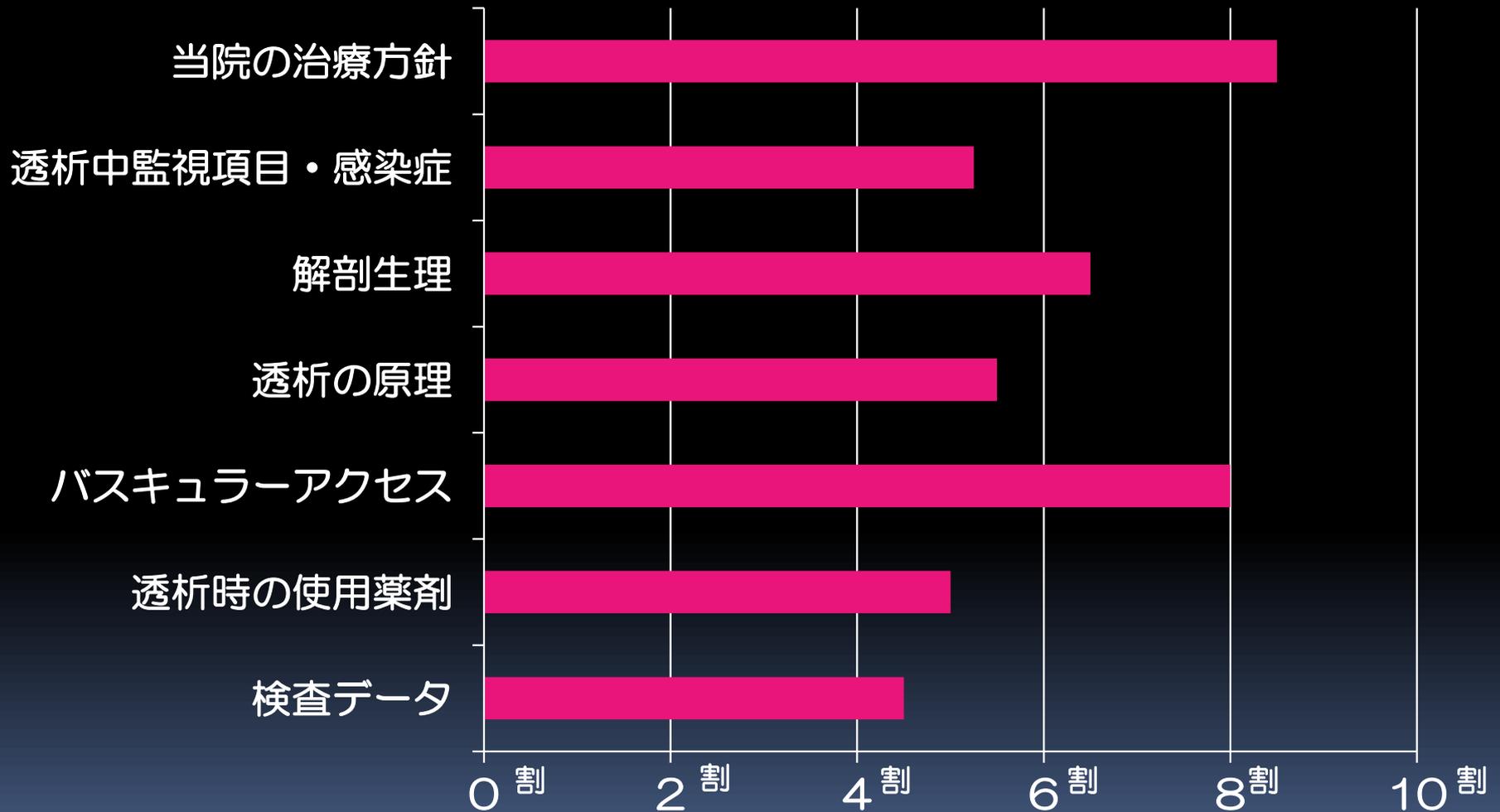


試験問題一部抜粋

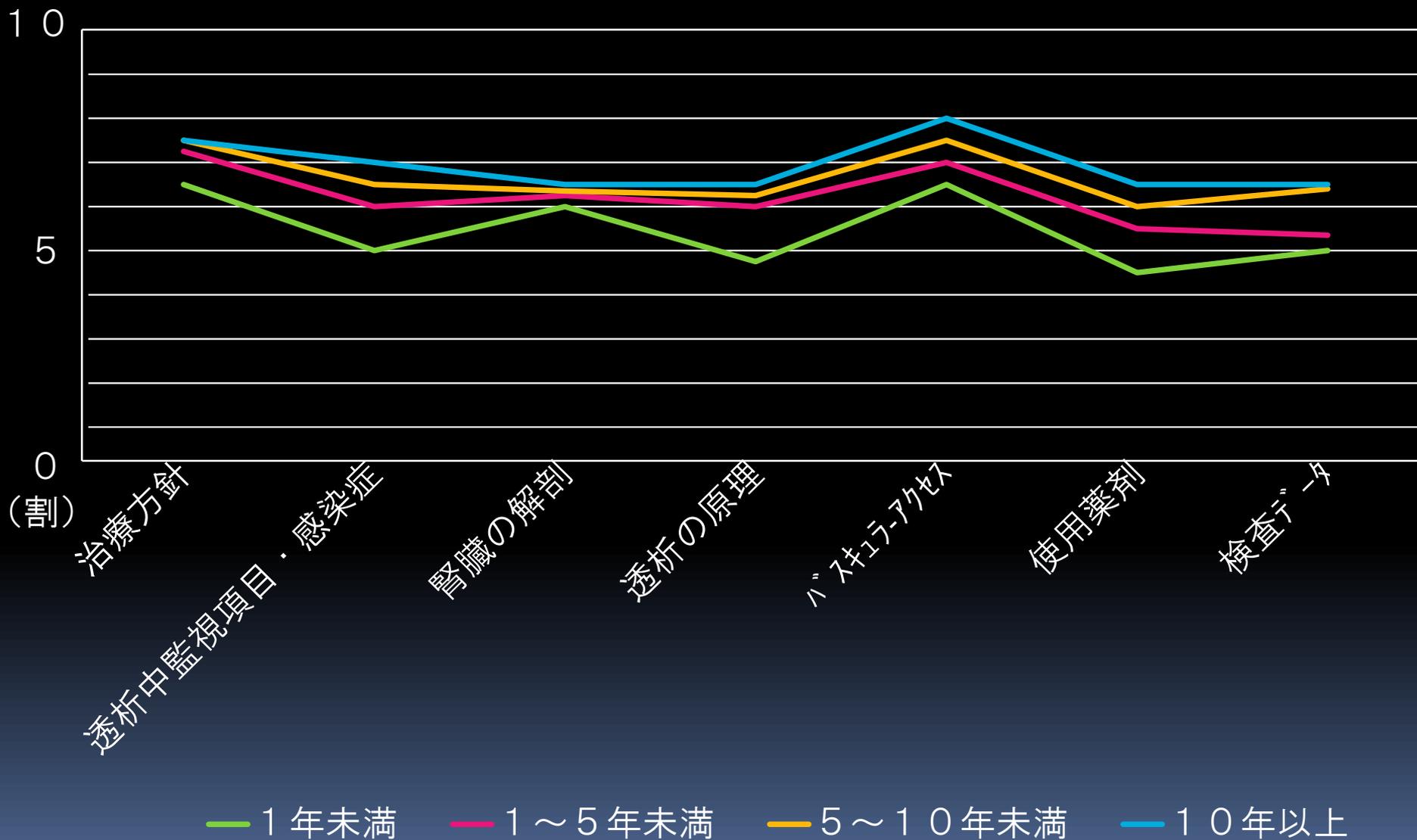
- スタンダードプリコーションについて記入しなさい
- 不均衡症候群の原因を記入しなさい
- 血圧の定義と正常血圧を記入しなさい
- 1日の塩分摂取量は何g以下が適正か記入しなさい
- サブラッドはなぜA液とB液が隔壁されていますか
- リクセルはどんな目的で使われますか
- フサンの半減期はどれくらいですか

以上、全100問すべて記述式となります

分野別テスト結果割合



透析経験年数別テスト結果割合



【結果】

- 勤続年数に関係なく、解剖生理や検査データ基準値等の基礎的間違いがみられた
- 使用薬剤の薬理作用が理解できていないスタッフが5割を占めた
- バスキュラーアクセスについては8割が理解していた
- 再試験では全員合格し、苦手分野の再確認ができた

【考察1】

- 感染症の知識不足を補うため、感染委員会を交え知識の向上を図った
- 透析を行うためには穿刺は必須であり、失敗は患者様とスタッフ間でストレスとなるので、失敗の確率を減らすために各自知識の向上を図っていたと思われる

【考察2】

- チーム医療を円滑に行うには、スタッフの知識向上と業務統一化が必要である
- 当院では全員の透析技術認定士の取得を目指しており、達成に向け今後も知識調査を継続することが必要である
- 勤務年数に関係なく基礎的問題ができていないのは、目的意識の欠如が原因であり認定士取得だけでなく更なる知識向上が必要である